

東京ボード工業／大谷清運／ニュー・オータニ

使用済み割りばしを再資源化

3社が協定を締結、取組開始

本質廃棄物のリサイクル事業を展開する東京ボード工業（東京・江東）と一般産業廃棄物処理業を展開する大谷清運（東京・葛飾）、ホテル事業を展開するニュー・オータニ（東京・千代田）の3社は、「使用済み割りばしのマテリアルリサイクル推進に関する協定」を締結し、本格的な取り組みを開始した。3社が協定に基づいて従来

焼却処分されてきた使用済み割りばしを建材として循環利用していく。焼却処分されてきた使用済み割りばしを建材として循環利用できないか、その仕組みを検討してきた。

東京ボード工業は、ホテルの懇親会等のビュッフェで大量の使用済み割りばしが廃棄さ

れたのをもったいないと思い、資源として循環利用できないか、その仕組みを検討してきた。ホテルニューオータニ創業時から排出される廃棄物の適正処理と



ホテルニューオータニ



大谷清運作業風景

再資源化への推進を担ってきた大谷清運に「使用済み割りばしのマテリアルリサイクル」の取り組みを相談した結果、共感が得られ、1次2次へ提案すること

となり、ニュー・オータニも「ごみを出さず、かつ誰かの生活の一部になる資源を提供できる取り組みはまさに循環型社会の実現を目指す内容だ」と共鳴したことから取り組みが決まった。

各社の役割については、ホテルニューオータニ（東京）で使われた割りばしを分別・集積し、大谷清運が使用済み割りばしとその

他の廃棄物を分けて収集、使用済み割りばしを東京ボード工業の新工場へ搬入する。



東京ボード工業では受け入れた使用済み割りばしの破砕と異物除去を行い、同社製造のパ

ーティクルボード「E・V・Aボード」の原料として利用する。再資源化する使用済み割りばしの材質はアスペン、竹等となっている。東京ボード工業では従来からさまざまな材質の本質廃棄物を

原料として活用してきた実績があり、製造される製品は全てJIS規格に適合している。3社は取り組みを通じて、年間約5・4トの使用済み割りばしを再資源化することができると見通している。また、木材を燃やさず建材として繰り返し利用する「炭素固定」による温室効果ガスの削減量については、年間5・1トCO₂と推計している。